生活のムダを省こう

今こそみんなで考える時

紙上討論 私たちの意見

〝消費は美徳〟〝消費者は王様〟―などと、もてはやされてから久しく、その間、わたしたちの生活の中にも知らず知らずのうちに〝ムダ〟が侵入してきているのではないでしょうか。それが、物不足、物価高の直接の原因ではないにしても、今こそ、一人一人が〝生活のムダ〟を真剣に考える時です。

そこで今回は「生活のムダを省こう」と題して七人の方からご登場願いました。

不買運動で対決

鈴木郁子 32歳（長嶺町7 主婦）

「来月から値上がりしますから、今がお買得ですよ。」と店員に進められ、朽るものでもないからと少しづつ買いだめをしていたが、今はそうはいかない。何一つ手にとっても、全商品一切が値上がりなのである。我が家に保管庫があるわけじゃなし、買いだめしたくても置き場所もないし、なんといってもお金が続かない。油紙に火のついたような勢いで物価がたちまち上がっていくこの恐ろしいご時世の中で、我々主婦は、どう生活のムダを省いたらよいのだろうか。買いだめをして寝せておく品物もムダの一つだろうか。だが、二か月ですぐ上がるチリ紙や、その他あらゆる品の数数を考えたら、決ってムダではないような気もする。「絶対これ以上値上げはしないから余分に買わないでください」というはっきりとした情報でもない限り、店の人が「もっと上がるから今がお買得!!」と宣伝する以上、貯金をおろしてでも買いだめしたくなるのが、残念ながら我々主婦のあさはかな考えなのである。

消費者が泣き、やせこけていくというのに、かげでどんどん売って笑いが止まらぬほど儲けている者がいるなんてくやしくてたまらない。なんとしても消費者が一致団結して不買運動をやろうではありませんか。

必要以上に絶対物を買わないこと。儲け主義の商人の甘い言葉には、聞く耳をもたぬこと。同じ品物を、少しでも安く売っている良心的な店を選ぶこと。私たちの生活を今一度ふりかえってみようではありませんか。一つの品物を長く大切に使うように自分から努力し、物の尊さというものを、子供達にもわからせてやろうではありませんか。もっと一人一人が賢い消費者となって、しっかりした信念と判断を持ち、人にまどわされることなく、自分のペースでムダを省いていこうではありませんか。

生活資料の合理的利用

笹川実 23歳（学校町3 大学生）

私の母は戦中派で、いわゆる「物のない時代」に育った人です。私は子供の頃から口をすっぱくして物の大切さ、物に対する感謝の気持ちについて説教されました。古着の類からゴムひも一本にわたるまで、それは飽きれる程です。今もって、それは変りません。しかし、そうした母の生活態度は我が家の生活に相当貢献してきた事も事実です。〝消費文化〟の申し子のような私は、母とその事で口論するたびに「価値感が変化した」という論理で論破してきたつもりでした。しかし、こうした時代になって、母に身をもって貴重な事を教えられたような気がします。

それは、第一には生活資料の合理的利用と活用の精神です。この事は〝消費〟が悪く、〝節約〟がよいという議論以前の問題です。

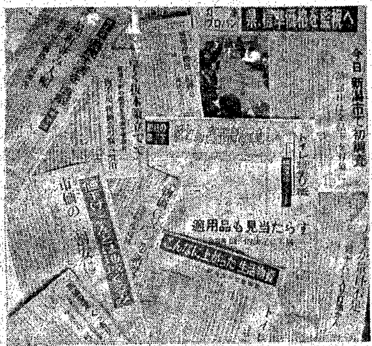
第二には、そうした精神の一貫した実践です。我々はどうやら、人と同じ事をやっていれば間違いないという〝一億総…〟式の日本特有の共同体意識から脱げきっていないようです。隣りに誰が住んでいるのかも知らないという都市生活は、そうした意識の裏返しではないのか。実際のところは、他人の挙動が大変に気になるというのが我々の本音だと思う。コマーシャリズムに翻弄され安いという日本人の弱点がここに潜んでいると思う。

我々は「消費から節約への転換」を叫ぶ前に「賢い〝生活者〟への転換」を今こそ真剣に考えなければならない時ではないでしょうか。その事からまず始める事が、〝生活のムダを省く〟ための第一歩であり、近道だと思うのですが。

心豊かな節約を

見崎恵子 41歳（東堀通 主婦）

資源不足、石油危機、諸物価暴騰、加えて公害と深刻な課題に直面している昨今、これらの複雑な混乱状勢に対処するすべも見つけ得ぬまま、あえぎ過ごしているのが私達主婦の現状である。消費は美徳などと使い捨ての時代を迎えて久しく、戦中戦後の物不足を体験して育った私達にとって、何か釈然とせぬ思いのまま、ようやく妥協の兆を見つけかけたその時、今度は百八十度の大回転、節約の時代へと見事な変身ぶりにいささかの戸惑を感じている。しかし、これらの間接的原因となっている「ムダ」について、今真剣に考え直す必要と同時に、豊富に慣れきった我が子達へ、忘れかけている「ものを大切にする」心を育ててやる好機かと思われる。気付かぬ間に私達の消費生活の中に入りこんだムダは、毎日の食生活を始め電気、水道、石油、ガス、洗剤、トイレットペーパーと、その数は枚挙にいとまのない程、文化生活という名を借りて使われ続けて来た。特に最近の冠婚葬祭など目に見えて必要の限度を越えたムダと虚礼で飾られている。贈答品の過剰包装しかり、まだまだ省ける予地が十分にあり得る。私達のまわりについつい買い込んだままの衣類や衝動買いの商品など、活用を待ち続けているものが少なからずあるに違いない。いち早くこれらのムダに対応して、その解決の方法と手段に再検討を加えてみる心掛けこそ、ケチる節約より豊かな心を失わない節約へ通じる道であり、案外資源不足時代への抵抗と、ムダの解消へ近づき得る私達のささやかな挑戦なのかもしれない。



次回は…

火災をなくすには!?

去年1年間で市内の火災は168件もあり、47年に比べて29件もふえています。損害額も1億8000万円にのぼりました。

〝火のもとに注意すれば火災は防止できる〟といえばそれまでですが、常日頃、どんな心がけや備えをしていれば無くすことができるでしょうか。みなさんの火災防止対策上のご意見やご経験をお聞かせください。

▼募集要領▲ 四百字詰め原稿用紙一枚半（六百字程度）にまとめ、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記し、市広報課（〒九五一、西堀通六）へ二月二十八日までに送ってください。無記名の原稿は掲載いたしません。掲載分には、薄謝進呈。

物の命を大切に

井出美枝 29歳（有明町 主婦）

ムダを省く、物を大切にするという事は、物の持つ命を大切にし、感謝して生活するということだと思います。それは、直接自分の経済生活を守り、高めると共に健全な社会を維持する力であると私は思います。生活手段として使う〝物〟を作る地球上の資源はほとんど有限なのですから、いかに活用し、長持ちさせるか、私達一人一人がしっかり考えていかなければならないと思います。物の無い時代に育った私などは、水、電気、ガスなど効率よく使い、一枚のタオルもぞうきんにまでつかいきるのは当然と思っておりましたが、今はもっと効果のある事を考えなければならないようです。我家では、醤油、砂糖ぬきの献立がふえ、ストーブの上でコトコト煮えています。食品は出来るだけ〝しゅん〟の物を食べるようにし、実質的に栄養価が高く、消化吸収の効率の良いものをと工夫し、安い時に半調理し、保存するようにしています。子供のおやつも、シュークリーム、ゼリー、プリン、水ようかん、ケーキ類など、美味しいわりに簡単につくれます。散髪も洋服作りも子供の物なら、無理なく出来るものです。物が無い経済的に苦しいという事が人の心を貧しく、荒れたものにする事はたまらない事です。今、知恵を出し合って不当なものには対抗し、節約して心豊かに生活してゆきたいと思います。子供達にもしっかりと物を大切にする心をうえつけてゆきたいと思います。

生活は時流に合わせて

清野清太郎 61歳（北葉町5 会社員）

「消費は美徳」誰が考えたか知らないが、よくもまあ、時代に合わせて考えついた名文句だと、感嘆せずにはいられない。

昭和元禄だとかなんとか言って、我が国の繁栄云々といわれた日より、あのみじめな敗戦のことを考えれば、夢物語であった。

ない時代よりある時代へ移行して行く時、そして金があれば、誰だって奇麗な衣服を身にまとい、立派な家に住み、うまい物を食べたい、そして遊びたい、は人情の常である。剰え人間には見栄というものがあるから、消費は美徳とか、消費者は王様などという言葉も、不自然に聞こえなくなるのも又当然だったと思われる。

我々日本人は、昔から色々の災難や戦乱にも堪えて来た優秀な民族である。石油危機など一連の生活をおびやかすのに対しては、自づと時代に合わせて、生活の防衛に当ってのムダを省くことは、賢明な市民が一番よく知っているのじゃないかと信じている。

人間は所詮一人で生きられるものではなく時代と共に生きなければならないように出来ているようである。

今や時代は変って、消費の美徳は、背徳と変って、ケチケチが脚光を浴びて来た。これも時代の要請で致し方のないことで、この中からお互が時流が見つめ、生活の中からムダを省き、己れを守って行くのが人の知恵というものではなかろうか。

工夫のある生活で

袖山ミキ 37歳（女池 保母）

この春には、六年生になる娘に、「お母さんが私達の頃、家庭科でどんなことをしたの」と聞かれ改めて、二十余年も前のことをふり返ってみました。「そうね、足袋を縫って、靴下の爪先きや、踵のつくろい方を習って…」「そうそう、ほしがりません勝つまでは、といって、鉛筆だって、誰のが一番短かいかと競走したり停電は初中終で、ローソクの灯りで勉強し、部屋が暖かいと眠気が出るからと、角巻きにくるまって炭火を脇きに受験勉強したったんだわ」保母として現場にはいった当座も、その節約が身にしみついていて、新しい材料はもったいないと躁り、包装紙で折紙を作り、千羽鶴を作ったこと、製作物も既製品的な物はほとんどしなく、廃物利用をしたものでした。それが今では、「ケチ」と、若い人に見られるのがいやなのか、それとも使い捨て時代の波にもまれてか、靴下に穴があけば、寿命だとか、繕っている時間がもったいないと捨て、包み紙の折紙はまず使わず、赤黄緑と色あざやかな既製の折紙で子供と接している私。でも年一だけでなく、不用の物でも工夫し、考えて有効に使うことを知ってほしいと、びんぼう工作を取り入れています。家庭に帰っても、古くなったYシャツで枕カバー・ブラウスと、リフォームを心がけていた二十歳台に若返り物を大切に利用するということを、娘が、自然のうちに、学びとってくれるような母親になりたいと願っています。

生活の再点検

笹川文子 42歳（下所島 主婦）

毎日の暮しに欠かせない生活用品が、次々と店頭から姿を消し、再び出回るころには、値段がひところの二倍、三倍にはね上がり、便乗値上げがあとをたちません。つい先日まで消費は美徳といわれ、あり余る商品の中で暮してきたちにとってこの異変には、とまどうばかりです。

豊かな消費生活とは、いったいなんだったのでしょうか。使い捨て時代の中にあって、物の価値観を見失い、築き創りあげていく生活の喜びを忘れていたように思えてなりません。

これからは正しい消費生活のあり方を考え、身の回りを見直すことによってムダのない消費生活を送ることが、私たちにとって何よりも必要であり、いまこそ賢い消費者になるときではないでしょうか。

部屋中につけっ放しの電灯、電気コタツにガス、石油ストーブなどの暖房の数々、また歩くことを忘れさせた車、など一つ一つ数えあげたらきりがないほど。

ちょっとした暮しの点検でも知らずしらずのうちに習慣となって身についてしまったムダの多い日常生活に気付き、いまさらながら反省させられます。

節約は美徳などといまさらいわれるまでもなく、物を大切にする心、ムダを無くすことは人間としてごく自然の姿であり、考え方だと思います。

このさい一人一人が身の回りを再点検することによって日常生活の中からムダを追放することが、いまの生活危機を乗り切る最善の道だと考えます。